

2018年度

# 環境経営 レポート

対象期間  
2018年04月01日～2019年03月31日

作成日  
2019年06月03日



# Contents

## 目次

1	ご挨拶	2
2	組織概要と対象範囲	3
3	実施体制	4
4	環境経営方針	5
5	環境経営目標と実績・評価	6
6	環境経営計画の取組・評価と次年度の取組内容	7～13
7	環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、 訴訟等の有無	14
8	代表者による全体評価と見直しの結果	15

# Salutation

ご挨拶



I T技術の革新により人と人をつなげる環境は急激に変化していますが、我が社東郷電機グループは創業者の“人の和”を大切にする精神を継承し、人の心と心の強い結びつき、そして強く正しい心をもった「温情友愛」の集団から生まれる高品質なものづくりを目指し、社会に貢献していく企業を目指しております。

当社の「ものづくり」に対するこだわりは、技術の追求以前にまずは全社員が「当たり前のことを当たり前」に「ただひたすら「凡事徹底」し実践を積み重ねていくことです。この積み重ねこそが、日本の国土に根づいた「ものづくり」の精神に結びつく信じ、我が社は「Perfect manufacturing」

「Quality first」（きちんとつくる）を掲げ、高品質な商品をご提供し続けてまいります。

株式会社 出雲東郷電機

代表取締役社長 前田 和雄



# Corporate profile

## 組織概要と対象範囲

事業所名	株式会社 出雲東郷電機
代表者名	代表取締役社長 前田 和雄
所在地	島根県出雲市西林木町626-1
環境管理責任者及び 担当者連絡先	環境管理責任者：大村 美恵子 担 当 者：大村 美恵子 TEL 0853-23-1811 FAX 0853-24-8121
事業規模 (2018年3月31日現在)	製品出荷額：10億9000万円 社 員 数：119名
事業活動の内容	産業用制御機器（検出スイッチ、 操作スイッチ、センサ）の製造
事業年度	4月～翌年3月
認証・登録の対象範囲	当社で行う全活動、全組織

# System

## 実施体制

### 役割・責任・権限

① 社長	<ul style="list-style-type: none"><li>• 環境経営に関する統括</li><li>• 環境経営システムの実施及び管理に必要な資源の準備</li><li>• 環境経営実施体制の構築</li><li>• 環境管理責任者の任命</li><li>• 経営における課題とチャンスの明確化</li><li>• 環境経営方針の策定・見直し</li><li>• 環境経営システムの評価と見直し</li></ul>
② 管理課長（事務局長）	<ul style="list-style-type: none"><li>• 社長不在時の代行</li><li>• 環境管理責任者・事務局が決めかねる内容の判断</li></ul>
③ 環境管理責任者	<ul style="list-style-type: none"><li>• 環境経営システムの構築と実施</li><li>• 環境活動の取組結果を社長及び管理課長へ報告</li></ul>
④ 環境事務局	<ul style="list-style-type: none"><li>• 環境管理責任者の補佐</li><li>• 環境経営システムに関する事務</li><li>• 環境関連の外部コミュニケーションの窓口</li></ul>
⑤ 環境推進委員	<ul style="list-style-type: none"><li>• 環境活動の推進</li></ul>
⑥ 各部門長	<ul style="list-style-type: none"><li>• 自部門における環境経営システムの実施</li></ul>
⑦ 全社員	<ul style="list-style-type: none"><li>• 自主的・積極的な環境活動への参加</li></ul>
【補足】	
※ 環境関連文書類の責任・権限については、環境関連文書管理規程に従う	

# Environmental policy

## 環境経営方針

### 基本理念

当社は、環境問題の保全が企業活動における重要課題と認識し、当社が環境に与える影響を社員一人一人が自主的に、継続的に低減するための環境活動に取り組み、自然環境との調和と地域社会との共生を目指します。

### 方針

1. 環境保全活動として、次の事を重点課題として取り組みます。
  - (1) 二酸化炭素排出量削減のため、電力・化石燃料等のエネルギーを有効利用します。
  - (2) 循環型社会形成のため、廃棄物の削減とリサイクルの推進に取り組みます。
  - (3) 限りある資源の有効活用のため、生産効率向上と不良率削減に取り組みます。
2. 環境経営目標を設定し、定期的にその効果を評価し、必要に応じて見直しを行うと共に継続的改善に取り組みます。
3. 環境関連の法規制を遵守します。
4. 地域社会との調和を目指して社会貢献活動の推進を行います。
5. 環境への取り組みを環境経営レポートにまとめ公表いたします。

制定日 2014年 4月 1日

改定日 2018年 4月 1日

株式会社 出雲東郷電機

代表取締役社長 前田 和雄

# Objective

## 環境経営目標と実績・評価

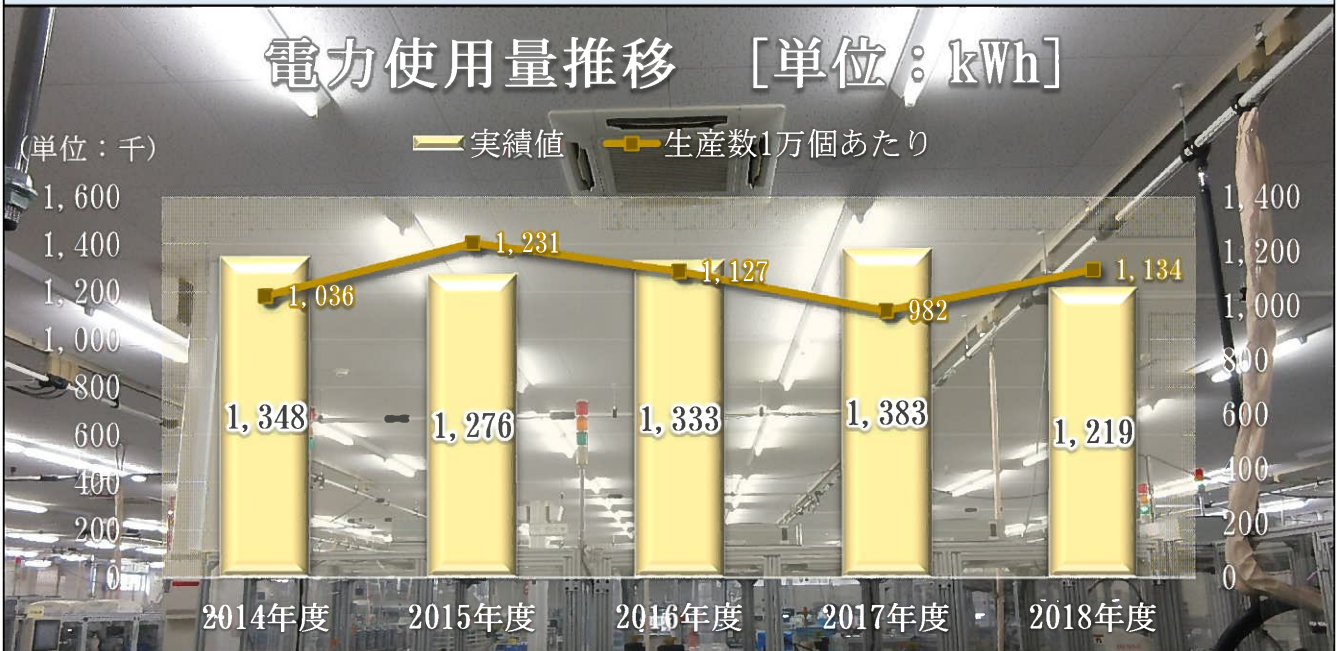
評価	項目名	2017年度		2018年度			2019年度 目標	2020年度 目標
		実績数値	計画	実績	計画と 実績の差			
○	1. 二酸化炭素排出量の削減	982.7 t-CO <sub>2</sub>	954.0 t-CO <sub>2</sub>	866.3 t-CO <sub>2</sub>	▲87.7 t-CO <sub>2</sub> DOWN 9%	849.2 t-CO <sub>2</sub>	840.9 t-CO <sub>2</sub>	
	1-① 電気使用量の削減	138.3 万kWh	134.2 万kWh	121.9 万kWh	▲12.3 万kWh DOWN 9%	119.6 万kWh	118.4 万kWh	
	1-② 化石燃料使用量の削減 (液化石油ガス【LPG】)	17,619.9 m <sup>3</sup>	17,619.9 m <sup>3</sup>	15,445.0 m <sup>3</sup>	▲2,174.9 m <sup>3</sup> DOWN 12%	14,801.0 m <sup>3</sup>	14,801 m <sup>3</sup>	
○	2. 廃棄物排出量の削減	51,689.5 kg	51,172.6 kg	39,738.9 kg	▲11,433.7 kg DOWN 22%	39,341.6 kg	38,948.2 kg	
	2-① 一般廃棄物排出量削減	33,432.5 kg	33,098.2 kg	26,154.6 kg	▲6,943.6 kg DOWN 21%	25,893.1 kg	25,634.2 kg	
	2-② 産業廃棄物排出量削減	18,257.0 kg	18,074.4 kg	13,584.3 kg	▲4,490.1 kg DOWN 25%	13,448.5 kg	13,314.0 kg	
○	3. 水使用量の削減 【水道水と井水の使用量削減】	2,766.5 m <sup>3</sup>	2,738.8 m <sup>3</sup>	2,441.0 m <sup>3</sup>	▲297.8 m <sup>3</sup> DOWN 11%	2,416.6 m <sup>3</sup>	2,416.6 m <sup>3</sup>	
○	4. 化学物質使用量の把握 【PRTR制度に該当する第一種指定化学物質の使用量が、規制量の1,000kg未満かどうかを確認する】	適正管理 【使用量管理】 ※年間使用量11kg (参考：2017年度実績8kg)					適正管理 【使用量管理】	



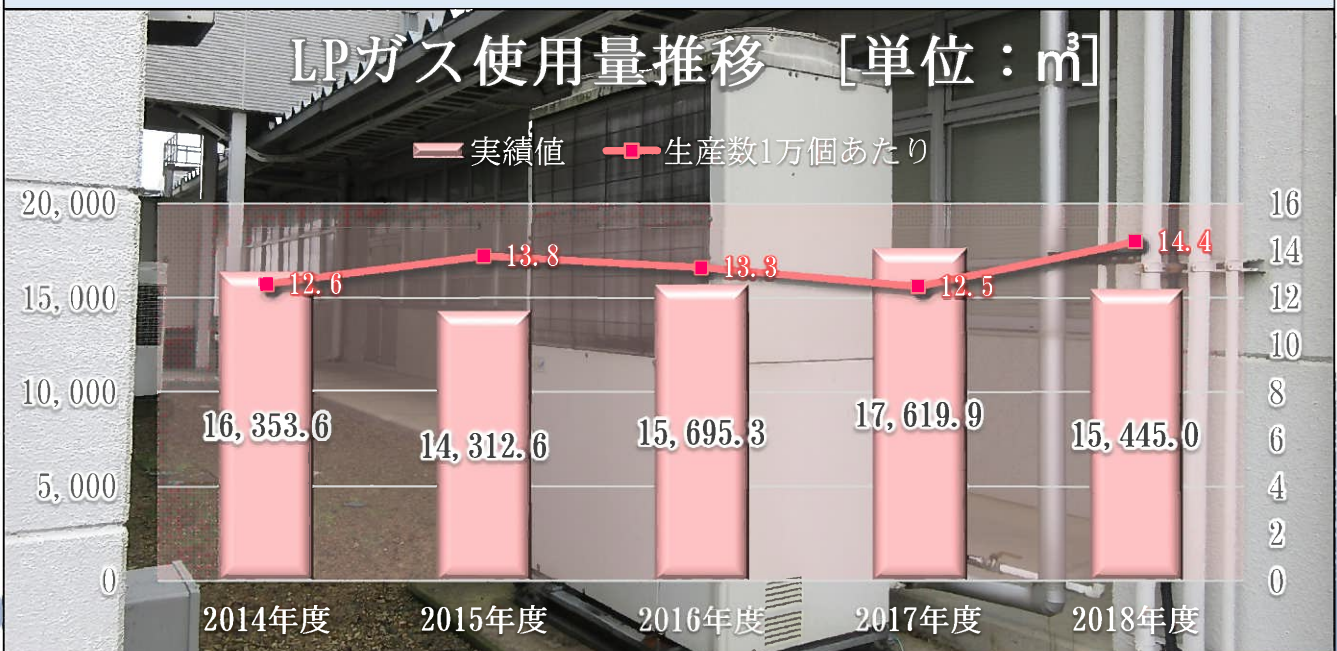
# Activities

環境経営計画の取組・評価と次年度の取組内容

## No.1-① 電気使用による二酸化炭素排出量の削減【電気使用量の削減】



## No.1-② 化石燃料使用による二酸化炭素排出量の削減【LPガス使用量の削減】



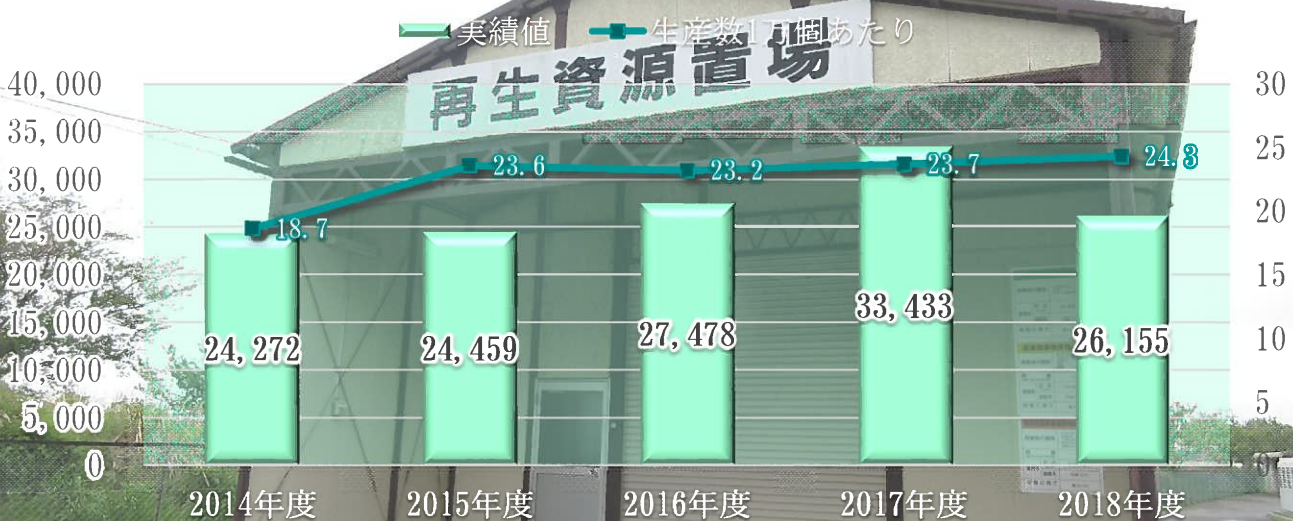


# Activities

環境経営計画の取組・評価と次年度の取組内容

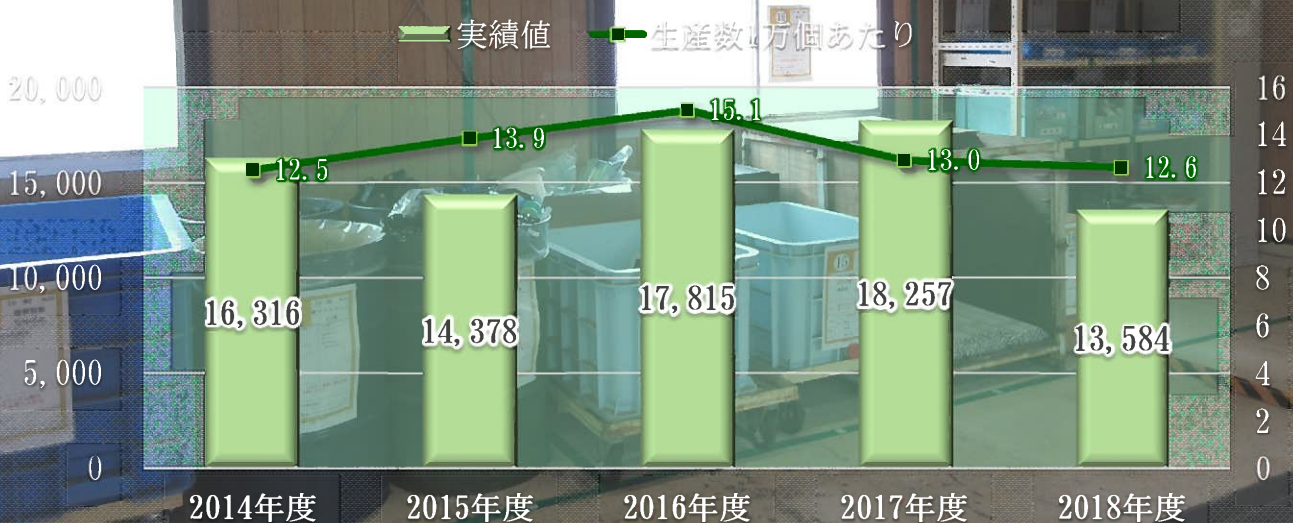
## No.2-① 一般廃棄物排出量削減

### 一般廃棄物排出量推移 [単位：kg]



## No.2-② 産業廃棄物排出量削減

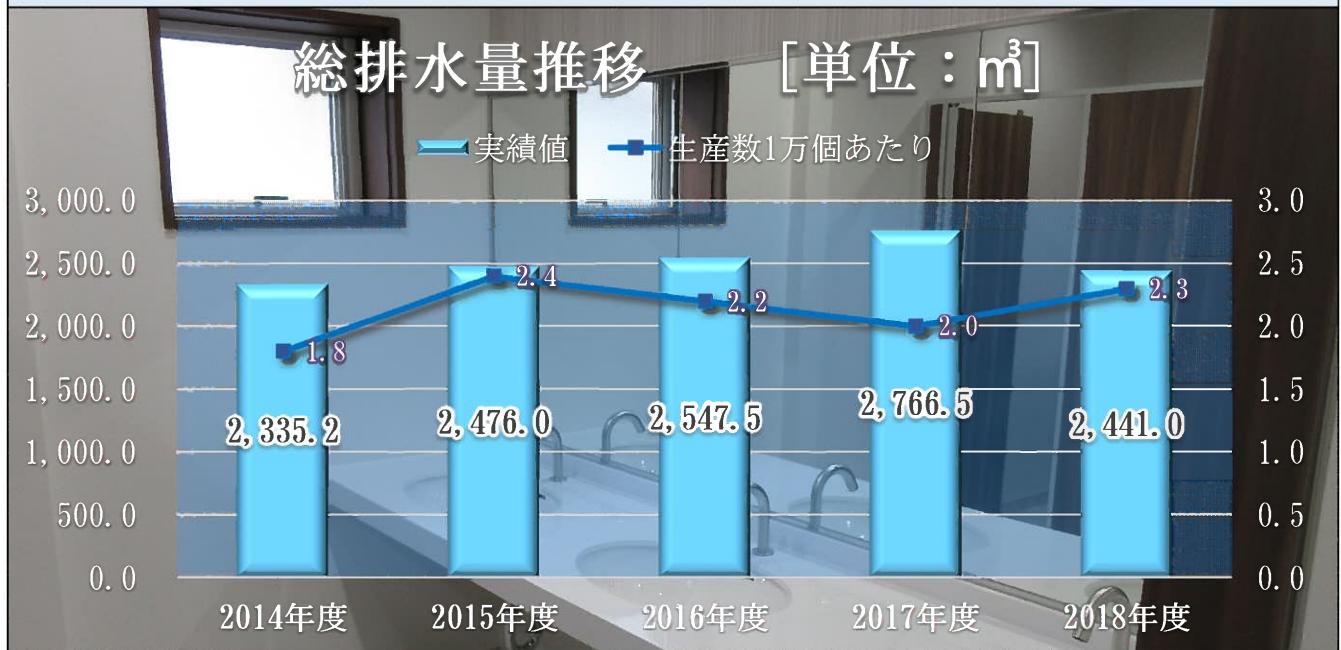
### 産業廃棄物排出量推移 [単位：kg]



# Activities

## 環境経営計画の取組・評価と次年度の取組内容

### No.3 総排水量の削減



項目名	活動計画	取組内容	評価	次年度の取組
二酸化炭素排出量の削減	物流棟の空調機を省エネタイプ更新	物流棟の空調機を省エネタイプ更新	×	食堂棟・連絡通路の空調機を省エネタイプ更新
	食堂棟の空調機を省エネタイプ更新	未実施 社内の外灯を水銀灯からLED化	○	
廃棄物排出量の削減	ダンボール排出削減	未実施	×	ダンボール排出削減 不良率低減による廃棄量削減
	形A16SW不廃棄重量の削減 (目標278kg以下)	形A16SW不廃棄重量の削減 (実績35.8kg)	×	
	形D4F不廃棄重量の削減 (目標7.8kg以下)	形A16SW不廃棄重量の削減 (実績6.02kg)	○	
水使用量の削減	食堂棟のトイレを節水タイプに更新	食堂棟のトイレを節水タイプに更新	○	1号館のトイレを節水タイプに更新
化学物質使用量の把握	化学物質の年間使用量が規制量の1,000kg未満かどうかを確認	年間使用量11kgで規制値未満	○	引き続き、年間使用量が規制量1,000kg未満の管理を行う



# Activities

環境経営計画の取組・評価と次年度の取組内容

## 物流棟空調機入替【2018年12月】

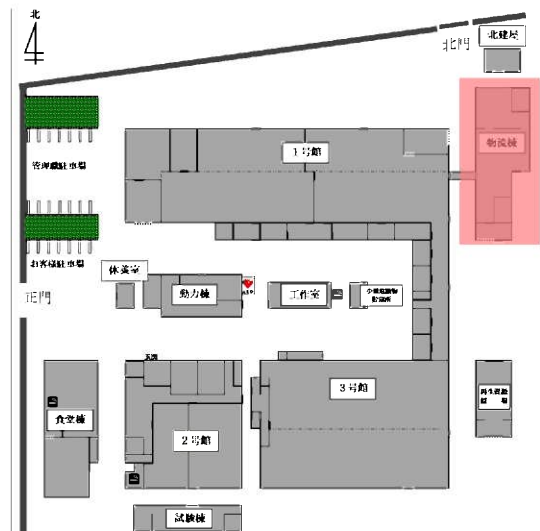
入替部分  
面積

**778m<sup>2</sup>**

全体

**11,962m<sup>2</sup>**

全床面積の**約7%**



：対象エリア

20年前のモデルを  
**最新の省エネタイプ**へ変更



電気使用量削減試算

4.1万kWh/年



**2.7万kWh/年**

**34%削減**

金額換算

約**25**万円/年

1.4万kWh/年削減



# Activities

環境経営計画の取組・評価と次年度の取組内容

## 構内水銀灯のLED化【2019年2月】



駐車場(西)



駐車場(北)



電気使用量削減試算

1.3万kWh/年



**0.4万kWh/年**

**69%削減**

金額換算

約**16**万円/年

0.9万kWh/年削減

# Activities

環境経営計画の取組・評価と次年度の取組内容

## 食堂棟トイレ改修【2018年12月】

### Before



### After



◀ 照明・換気扇・手洗い共に  
センサー式にし、節電・節水



▲ 照明はLED化

◀ トイレは節水タイプを選定

水使用量削減試算 ※男女各30人/日使用で算出

112.4m<sup>3</sup>/年



41.0m<sup>3</sup>/年

72%削減

金額換算

約1.5万円/年

81.4m<sup>3</sup>/年削減



# Activities

## 環境経営計画の取組・評価と次年度の取組内容

### その他の取組

#### ■ 社会貢献活動の継続

- 献血を2回実施（2018年5月9日、2018年12月5日）
- エコキャップ運動の継続



2017年度〈11/24～3/31〉 **1,500個**  
2018年度〈4/1～3/31〉 **7,000個**

これまで **約20kg**  
トータル**8,500個**の  
キャップが集まっています

#### ■ 2018年6月～7月：全国一斉ライトダウンキャンペーンに参加

- 照明・水銀灯の消灯
- ポスターによる呼びかけ



【夏至ライトダウンの取組：6/21（木）】

20時～22時

- ・ 事務所照明の消灯

【クールアースデーの取組：7/7（土）】

20時～22時

- ・ 屋外水銀灯の消灯



# Regulation

環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果  
並びに違反、訴訟等の有無

適用される法規制	適用される事項【施設・物質・事業活動】	遵守状況
水質汚濁防止法 【法第14条の2】	・貯油施設、危険物等の事故時の処置と届出	該当なし
浄化槽法 【法第5, 10, 11条】	・浄化槽の保守点検、清掃、排出水水質検査	○
フロン類の使用の合理化及び管理の 適正化に関する法 【法第14条, 16条第1項】	・7.5kW未満は自主検査を3ヶ月に1回以上実施する ・7.5kW以上50kW未満のエアコンは3年に1回以上業者にて定期点検	○
廃棄物の処理及び清掃に関する法律 【法第6条の2, 法12条の2, 3, 5, 12条】	・保管基準の遵守、委託基準の遵守、電子マニフェ ストの交付	○
廃棄物の処理及び清掃に関する法律 施行規則 【法第8条】	・保管場所の表示600mm×600mm以上の標識掲示 ・飛散/浸透防止 ・衛生管理	○
出雲市火災予防条例 【条例第31条】	・危険物保管量の管理	○
消防法 【法第9条】	・バルクタンク変更時の届出	該当なし
家電リサイクル法 【法第6条】	・特定家庭用機器廃棄物の収集もしくは運搬をする者 ・又は再商品化等をする者に適切に引き渡す	○

## 違反等の遵守状況の評価

環境関連法規等の遵守状況を確認した結果、違反はありませんでした。  
【2019年03月08日確認】

また、創業以来5年間にわたって保健所等関連機関からの違反の指摘及び、地域住民等の利害関係者からの訴訟はありませんでした。

## 代表者による全体評価と見直しの結果

平成から令和へと新時代の幕開けの年に、弊社は創業5周年を迎えました。合わせて、エコアクション21認証取得後の活動も5年目を迎え、環境活動が全社員に定着してきました。

昨年を振り返りますと、12月にエコアクション21の移行審査を受審し、偶然ではありますが、山陰初の2017年版移行企業となり、大変嬉しい限りです。今後は、社内へ2017年版の定着を図り、その理念に基づき、環境と経営が共に発展する取組を行っていきます。

生産活動が企業主体であります当社においては、生産性や不良率改善の活動を行うことが、省エネや廃棄物量削減等の環境保全活動に繋がると考えます。社員が自主的に活動する為の教育を行い、改善活動や5S活動を通じて、生産性向上及び不良率改善に取り組みます。

弊社は、引き続き環境活動に積極的に取り組み、地域の環境保全と地域社会の発展に貢献するとともに企業価値の更なる向上を目指してまいりますので、今後とも皆様のご理解とご支援を宜しくお願い致します。

代表取締役社長 前田 和雄

# IZUMO TOGO

ELECTRONICS Corporation



作成

大谷 和史  
大村 美恵子  
福代 麻美